

第5回 公民館加入促進検討会

これまでの意見、議論、発言内容に基づく今後の議論の整理案

委員 兒玉 和裕

議論の視点の置き方

1 公民館組織、施設に関する視点

○公民館の意義への理解の醸成

- ・行政とのパイプ役（発言済み）
- ・地域交流の中核（世代間、住民間）⇒各種のイベントの開催
- ・活動内容等の情報提供（発言済み）
- ・災害時における中心的な役割の担い手

（自主防災組織・発言済み）

○公民館組織の刷新

- ・効率化、活動の透明化
- ・役員の世代交代⇒職場等の活動への理解促進

（有休等による支援）（発言済み）

○地域に立脚した活動拠点

- ・児童・生徒、高齢者等への公民館の開放⇒指定日・曜日設定、管理者など
- ・地域ボランティア活動拠点としての公民館施設の利用促進

○公民館と当該地域住民（非公民館住民を含む）の調整機能

- ・街灯維持費、消防費の徴収

（両経費は、地域の共役費として非館員も負担する必要があるという判例に基づく考え方）

2 目標到達期間のタイムラインの視点

○短期的な対策

- ・15自公連毎の公民館区域図の作成（発言済み）
- ・市広報において公民館活動、役割等に関する情報提供
（発言済み）
- ・各公民館毎の地域達成目標の言語化の推奨（発言済み）
- ・公民館利用に関する考え方の整理

○中期的な対策

- ・既存の自主防災組織の強化育成
- ・組織運営の効率化、見直し、改善

○長期的な対策

- ・公民館役員の世代交代・・・ 企業等の理解と行政の支援による公民館中核世代を60～70歳以上を50代前後に置き換え（発言済み）
- ・中核世代の置き換えによる公民館業務のデジタル化・DX（制度変革）化の推進（発言済み）

3 課題解決の視点

- 生活課題の解決ルートの明確化（発言済み）

4 市の公民館に対する役割・機能の明文化

- 公民館が市へさまざまな課題や要望について協議する場合、その内容は各公民館に共通することが多く、一方でその際には内容に応じて担当課を選別している。あらかじめ係る部分における担当課における公民館へ期待される役割の程度、範囲、機能などについて、これまでの事例を元に明示
- 市民全員が公民館に加入したときの市の市民に対する公民館を通じた役割、機能の公民館への分担・分化の可能性の可否と範囲

5 その他

- 若者は公民館に入らないという固定観念の払拭（事例報告済み）
- 公民館加入促進対象者の選定・・・（5分類提示済み）
対策実現のの目標を、来年とするのか、3年後か、5年後か、10年後かで加入対象者へのアプローチを変更
※上記「目標到達期間のタイムラインの視点」と関連